

本人が物語風に綴る闘病記

44歳で甲状腺がんの中咽頭がんが見つかりましたが、
中2の娘が「大したことないやん」と言うので。

著：原 利彦（1972年 生まれ）



中咽頭がん 治療編 2 039：ノーベル平和賞を受賞するだろう。

2017年5月4日（木）（抗がん剤治療1/2回目・放射線治療8/39回目）

なんと、ゴールデンウィークにて放射線治療も今日から4連休です！

既に昨日から病院自体は休みですが、当然、入院患者に対しては稼働しています。血液検査は月曜日と木曜日。体重測定も木曜日。それ以外は毎朝、看護師が来ては、体温を計り、諸々のチェックがあります。特に口酸っぱく言われるのは口の中を清潔に保つことです。看護師との、お決まりの、やりとり、

「お口の中を見せてください・・・はい、きれいにされていますね。」

今のところ、この繰り返しです。特に口の中に変化はないため、おススメと言われた刺激の少ない高級歯磨き粉ではなく、一般的な歯磨き粉を使っていました。



ただし、歯磨きと同時に、

トキは人生初の舌磨きも使い、それなりにケアをしていますが、この先、どうなることやら？とりあえず、口の中も頸の周りも放射線治療の影響は、まだ何もありません。

さて、トキの姉夫婦が見舞いに来ました。トキは両親に話した時と同じく「がんだけ治療は出来る、死にはしない。」と言うことを必死に伝えるべく、同じような言葉を何度も何度も重ねました。

それを、姉夫婦は「うん、うん。」と、ただひたすら聞いてくれました。

2017年5月5日（金）（抗がん剤治療1/2回目・放射線治療8/39回目）

ウタに頼まれた、ハリー・ポッターのような物語も書き始めました。

タイトルは、『**道具職人 マキリの仕事**』。マキリとは『**魔を切る**』という意味です。

架空の世界で、マキリが作った道具達と共に活躍をするファンタジーです。

ノートや、スマホで下書きしたものをパソコンで清書していきます。

困みに、この度の治療途中で万が一、くたばり、物語が途中で終わることの無いように、トキは画期的なことを考えました。最初と最後を書いてしまい、途中は1話完結のエピソードを書ける時に書いて、増やしていけば、形的には、いつの状態でも完成なのです。

というわけで、**まずは、最後のエピソードから書き始めました。**

内容は最近のニュースからヒントを得たものです。

そう、**連日、北朝鮮からミサイルが発射されるニュースで持ちきりです。**

評論家たちは、こぞって、日々、『ミサイル予報』をしています。

トキは映像職人です。テレビのワイドショーでは『**煽った**』方が視聴率がとれることも良く知っています。

しかし、今のトキにとっては、**いつ発射されるかどうか何て、どうでもいいのです。**

最も大切なことは、いかにして発射させないかです。

なぜなら、**ミサイルが発射され、避難して助かったとしても、治療は、ストップします。**

つまり、トキは、ミサイルそのものではなく、『そのこと』によって死ぬのです。

病気と、そして猛烈な副作用と闘っている、トキにとっては、いつ発射されるかばかりを一生懸命、予想している専門家たちの姿がロボットのように見えていました。

『**この人たちは、自分の頭上に飛んで来ても、予報が当たったら喜ぶのかな？**』この病院で闘っている誰もが、そう思っているのではないかと思い、

トキは物語の中に願いを込めました。



架空の北朝鮮と架空のアメリカが停戦をして、いわゆる核兵器をお互いに廃絶することで、世界中の国も同じく廃絶の流れとなり、大きな平和をもたらすというもの。実は、その仕組まれた芝居の台本を書き上げるのが、

マキリが命を懸けて最期に作った道具『マキリのペン』です。

トキは妄想しました。

『この物語が、ネットで拡散して、もし世界的な行動になったら、きっと、僕は、ノーベル平和賞を受賞するだろう。』

⇒ 040 : 猫背になりがちなので。